

## インドの花嫁

特許審査第四部長 櫻井 孝

自分はインドにいる間にインドとブータンの郵便切手を集め始め、帰国してからもメイルオークションなども利用しながらコレクションを拡充していったのだが、残念ながら日本では、ブータンはともかくインドの切手に対する人気は相当に低い。日本の切手収集家の関心の的はやはり日本切手とか中国切手にあるらしく、切手屋さんに行ってインドの切手はありますかと聞いても、そんなの人気がないから扱ってないよ、日本で集めている人なんかいないんじゃないの、などと冷たくあしらわれたことは数知れない。ということもあって、自分のインド切手収集は帰国してから3年もしないうちに続かなくなってしまった。

しかし、考えようによっては日本においては自分のコレクションはけっこう珍しいものなのかもしれない。特に自分がインドにいた1993年春までの切手は完集したから、いずれは全部の切手を画像データに取り込んで、解説も付けながら本でも出したいなあなどと大それたことを考えていた。

ところが、切手の本はけっこう出版されるものの、これがまた売れないんだそうである。唯一売れたものがあるとのことで、聞いてみたら、世界の民族衣装の切手を集めた本だったんだそう。切手を集める際には、国別に集めるもののほかに、例えば蝶の切手とか飛行機の切手とか、トピックスを決めて集める人も多い。その本の著者はおそらく国を問わずに民族衣装の描かれた切手を集め、それに解説を付けて本を出版したのだろう。

しかし、その本が売れたと言っても、買い求めたのは切手収集家ではなかったんだそう。なんと、服飾デザイナーの人たちが競って買い求めたんだそうである。なぜか？ 当然のことながら、自分で服飾のデザインをする際に参考とするためだ。これはなかなか目からウロコの話である。世界各国の民族衣装の写真を集めることは相当に難しいだろうが、切手ならばたいいどの国でも

発行されているし、民族衣装というのは取り上げられやすいテーマだから、切手の世界で見ればけっこうな種類が集まりそうである。服飾デザイナーが、これは参考書になると思ったとしても不思議ではない。もっとも、その著者もそんな反響を最初から予想していたかどうかはわからないが。

で、これはたいへんに示唆に富んだ話ではあるのだが、インドの切手には残念ながらそのような売りになるようなものが見当たらない。ある切手商が、インドの記念切手は人物を描いたものがやたらに多いからそれで人気がないんだよね、と言っていたが、その通り、インドの記念切手は、政治家や学者など人物をモチーフにした切手が実に多い。インド史でも勉強している人であればそれぞれに意味のある人物なのかも知れないが、関心のない人には失礼ながら退屈きわまりないのである。これでは、インドの切手の本はどうあっても日本で成功するとは思えない。



図1：1980年12月30日に発行されたインドの花嫁さんシリーズ4種の1枚：タミル・ナドゥ地方（ギボンズ#993）

このように日本では論ずるに難しいインドの切手ではあるが、中にはなかなかきれいな切手も発行されている。民族衣装とも関係するが、インド各地の伝統的な結婚式の衣装に身を包んだ花嫁さんをモチーフにした記念切手4種が1980年に発行された。

インドの結婚式は実ににぎやかである。自分も1度、日本大使館に働いていた現地職員の結婚式に呼ばれたことがあるが、とにかく派手できらびやかだ。まずは、住宅街の中にある空き地や公園のようなところに、カラフルで巨大なテントが突然現れる。それが結婚式場兼披露宴会場となるのだが、新郎はまさに白馬にまたがってやってくる。その前後を楽団やらなにやら、大勢の人たちが取り囲んで練り歩く。大騒ぎをしながら新郎一行が会場に到着し、さて結婚の儀式になると、これがまた厳かな雰囲気となる。招かれた日本人女性もみんなスカーフを被って髪の毛を出さないように命じられる。全員が床に座って見守る中、神主さんだか高僧だかが述べる、歌うような祈りの言葉とともに儀式が進む。そして儀式が終われば、あとはまたどんちゃん騒ぎだ。新郎新婦はもみくちゃにされていたが、それでもやはり幸せいっばいな顔をしていたのが印象的であった。

さて、花嫁さんの記念切手だが、残念ながらどうして1980年に発行されたのかはわからない。インド人の著した切手の解説本を見ても、なぜかこの切手に限っては淡々と「発行された」旨書かれているだけで、発行に至っ

た背景の説明がない。ただ、その前後に、インド各地に伝わる伝統舞踊をテーマとした6種類の記念切手(1975年10月)や、インド各地の原住民をテーマとした記念切手4種(1981年5月)も発行されているから、そういった一連の流れの中で発行されたものかもしれない。花嫁さん4種は、インド最南部のタミル・ナドゥ地方、最北部のカシミール地方、北西部のラジャスタン地方、東の Kolkata を中心とするベンガル地方のものを取り上げている。インド切手にもこんなにきれいで素敵なものもあるのである。



図2：同ラジャスタン地方(ギボンズ#994)。



図3：同カシミール地方(ギボンズ#995)。



図4：同ベンガル地方(ギボンズ#996)。